

## 白水川（山形県）

梅津晴華

### 1. 白水川

山形県村山地方にある東根市を流れている川で、最上川を軸とする奥羽水系（最上川水系）に属している。白水川は御所山県立自然公園の黒伏山、白森山（山形県）にその源を発し、東根市の市街地において日塔川と合流し、西流し最上川と合流する。同水系で、同じく東根市を流れる小見川は名水百選に選ばれている川で、イバラトミヨという巣作りをする珍しい魚（絶滅危惧種）が住んでいる。白水川から最上川までの距離も近い。



### 2. 正月に帰省して久しぶりに白水川に行ってみたが、雪

のため土手を下りることはできなかった（写真1）。川の兩岸は道路になっていて、その向こうにはサクランボ・リンゴ・ラフランス畑や水田地帯が広がっている（写真2）。道路に沿って桜の木が植えてあり、満開の時期にはとても美しい（写真3）。北国の春は華やかに一度に来て、桃、リンゴ、サクランボ、ラフランスと順番に花が咲いていき、桜の花の時にはすべての花が満開になり、白水川の周りでもそのような光景を目にすることができる。川の幅はそれほど広くなく、水量もそれほど多くないので、冬以外の時期には、川の浅瀬で遊ぶことができる。護岸工事も施されており、ところどころ子供たちが遊びやすくなっているところもある。

3. 私は小学3年生まで、東根市に住んでいた。その後住まいは父の転勤で仙台に移ったが、我が家は兼業農家で、父母が農業後継者として現在に至るまでほぼ毎週山形に通っているため、私もこの土地と川にはかなり馴染みが深い。今回、改めて自分と川とのかかわりを考えてみたが、この地域での生活と自然は白水川とかなり関係が深いと思う。というより、川無しには生きていけないと感じる。

このあたりの地域や山形県の盆地では、最上川やその支流を中心として田畑・果樹地帯が広がっており、だいたいどこも景色は変わらないように思う。白水川の水も農業用水として利用されており、山に降った雪が春に溶けて、田植えに使う水となる。田植え機に苗を入れた後、苗箱を用水路で洗うのだが、この水が冷たかったことをよく覚えている。田んぼから見える山の残雪が溶けて、最上川、白水川を通してここまで流れてくるのだと思うと、とても不思議だった。また、祖父はほぼ1年中田んぼの水に気を使って朝も夜も田を見に行く人で、「水を見てくる」ということばはいつも聞いていた。白水川はこの地域の水田にとって不可欠な水源で、積雪が少ないと昔から川の水が取り合いになったらしい。田にはホタルやゲンゴロウなど様々な昆虫もいて、水の近くでよく捕まえたりした。また、白水川の水を引いて、田んぼはもちろんだが、集落にも用水路が張り巡らせてあるので、カ

エルを採ったりして遊んでいた。このように白水川の水は農業生活と密着している。川の堤防の草刈りは集落の地区ごとに分担してされており、いつも川の周りはきれいだ。また、通っていた小学校から白水川まで歩いて10分ほどなので、生活科の時間には川や田で遊んだり、高学年の子供たちは川から水を引いた田で米作りの時間が設けられていた。田んぼでイナゴ取りの時間もあった。皆が取ってきたイナゴは次の日に先生が煮てきて、給食で最低2匹は食べなければならなかった。私の家から白水川までは自転車で15分ほどだが、隣の集落の習字教室に通う行き帰りはいつも白水川のほとりを行った。自転車で遊ぶときはいつも白水川まで乗って遊びに行った。石を持ち帰ったり、花を採ったり、川のそばでいつも遊んでいたように思う。

私の家がある集落は、江戸時代に「長瀨藩」という小さな藩があったところで、集落の周りを現在でも当時の堀が囲っている。我が家は当時大手門が存在した位置にあるのだが、家から20秒のところには堀がある(この堀の水は白水川の水を引いているわけではないが、父が幼いころは循環しており、ここで野菜などを洗っていたらしい。今はほぼドブで、コイやタナゴがいる。)この堀で、また白水川や最上川で、毎日子供たちがすることと言えば釣りである。小学校の生活科の時間が釣りに充てられるくらい、この地域の人は大人も子供も釣りが好きだと思う。白水川にはオイカワやコイがいて、父、弟と何度か釣りをしに行ったことがある。また、上流にある白水川ダムには公園もあって、そこで水遊びをしたこともある。夏でも水が冷たいが、子供が遊びやすいように美しく整備されている。

4. 私の父は川と、釣りと共に育ったような人であるが、今と違って昔は白水川にもハヤがたくさんいたそうである。コイやナマズもいて、よく釣りをしたと言っていた。この地域では鯉を良く食べるので「鯉屋」があり、鯉の煮つけがスーパーでも売られているが、父はよく川で釣ってきて食べたという。また、堤防で薪や焚きつけを拾ったり、葦を刈っていたそうなので、今のように草刈りなどしなくてもいつもきれいだったようだ。また、山形の地域行事である芋煮会(秋に、川原で里芋、こんにゃく、ねぎ、牛肉などが入ったしょうゆ味の汁を作って皆で食べる行事。なぜか川原に薪や鍋をもって行ってやらなくてははいけない)も白水川の堤防でよくしていたらしい。最近は芋煮会は白水川ではせず、最上川の川原まで行ってやる人が多いように思う。父曰く、白水川が昔ほど良い環境でなくなったのは、白水川ダムができてからということである。また、護岸工事をしすぎたのも、ハヤなどの清流の魚がいなくなってしまった原因だと言っていた。

5. 「最上川」の Web-site はあったが、「白水川」自体のものは、小さい川なので発見することができなかった。しかし山形県のホームページの中に白水川ダムについての情報があった。このダムは白水川の治水と、果樹園への灌漑等を目的として建設され、平成3年に完成し、また、「豊かな自然」や「ゆとりとうるおいのある生活」が求められている社会的要求を背景に、ダム周辺部に遊水広場を初め6広場を造成し、広く一般に解放しているということである。また、白水川で鳥類観察をしている人のページには、上流にサギ・カワセミ・ヨシキリなどの鳥が生息していることや、サケがのぼってくることも記されていた。また、東根市のホームページでは、夏に白水川で、最上第二漁業協同組合主催のマスのかみ取り大会が催された様子や、秋には「悠遊健歩」というウォーキング

大会が開催され、東根市にある温泉街を出発点に、白水川のほとりを人々が歩く写真を目にすることができた。

6. 今回、「川と人間生活」ということで白水川を取り上げて改めて気づいたことは、農業生活と自然に川とその水は欠かせないものであるということと、自分がいかに川に囲まれて生活していたかということだった。私が幼いころに遊んだ田んぼの水も、白水川の水を引いて流れているのだった。そこでとれる作物もまたそこに息づいている生命も、水があるからこそということを、今回改めて実感したように思う。当たり前で気付かなかったことが今になってようやく分かった気がする。白水川は今、昔父が知っていたようなそのままの自然の形に存在しているとは言えないが、それでも未だ多くの自然を残し、地域の人々の生活に密着し、欠かせない存在であると思う。堤防の手入れや工事などの面でも、またウォーキング大会などが催されることも、人々に必要とされ、かつ愛されているからであろう。川のそばの桜を見に来ている人や、川で釣りをしている子供たちの様子を見ると、この川が愛され大切にされて、また人々にゆとりを与えていることを感じる。

ふるさとのことを思い浮かべるとまず私の心に浮かぶのは、青々とした水田とそこを流れる川である。白水川がいつまでもこの美しい風景と共にあることを、切に願う。



写真1



写真2



写真3

【参考にした Web-site】

白水川ダム 山形県ホームページ

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/doboku/180006/dam/dammainhp/dammap/siromizu.html>

東根市ホームページ <http://www.city.higashine.yamagata.jp/1315.html>

KAN's 鳥見日記: 東根市白水川 [http://blog.livedoor.jp/birderkan/archives/cat\\_24234.html](http://blog.livedoor.jp/birderkan/archives/cat_24234.html)

名水百選 小見川 <http://www2.env.go.jp/water/mizu-site/meisui/data/index.asp?info=13>